潮風の中で　～吸血鬼冒険譚～

蒼歌　嵐雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
潮風の中で　～吸血鬼冒険譚～

【Ｎコード】
Ｎ６４１１Ｚ

【作者名】
蒼歌　嵐雪

【あらすじ】
少し暑くなってきた初夏のころ、蒼空　深琴は一人で砂浜に立っていた。
家族は全員火災で先に旅立ってしまった。襲ってくるのは絶望のみ。
哀れに思った一人の神が深琴を転生させるも望まない転生に怒る深琴。
旅の中でさまざまな人と触れ合いながら
自分の生きる意味を吸血鬼が探し求める冒険譚。

前題「　聖光の吸血鬼　」で、内容も大幅に改行。
R．１５は保険です。ごゆっくりどうぞ。

プロローグ　『沈みゆく意識と神様』（前書き）

初めまして、蒼歌　嵐雪です。

初投稿で未熟な部分も多々ありますが、

温かく見守ってください。

プロローグ　『　沈みゆく意識と神様　』

初夏の海辺に、蒼空深琴は一人で立っていた。

潮風が冷たく、そのにおいは家族との思い出をよみがえらせた。

もう、この世に未練はない。いっそこのまま身を投げ出してしまおうか。

そう思いながら静かに足を海へ進める。

その時だった。深琴の足元に不可解な模様が現れる。

何だかわからず急いで駆ける。しかし気づくと意識が薄れてきている。

「あぁ・・・・・このまま死ねたらいいのに・・・・・・。」

深琴は沈みゆく意識の中でそうつぶやいた。

そして深琴の姿は闇に消えていった。

「・・・・・・あ・・・れ？ここはどこでしょうか？」

確か自分は海辺にいたはず。

そしてそのまま・・・・・何があったんでしょうか？

何故か記憶がぼやけています・・・・・・。

それに何もない場所ですね・・・・・・。

「今回はどうやら当たりのようじゃな♪」

誰でしょうか？白いひげを蓄えたおじいさんが出てきました。

なんか変な独り言を言っています。

老化で頭がおかしくなってしまったのでしょうか？

見ててこっちが可哀そうに・・・・・・。

「失礼じゃな。わしはこれでも神様じゃぞ。」

神様って・・・・・もう末期症状ですか。

出来れば助けてあげたかったなぁ・・・・・・。

「これこれ、おぬしもひどいことを言うのぉ。と言うか何も突っ込まんのかお主。」

突っ込むって何をでしょう。

そんなつもりはありませんが昔からみんなに

「　深琴はボケ体質だよなぁ　」

って言われてたんですよ。

「　ほれほれ、と言うかなんでお主はここにいるんじゃ？とか、お前誰だ！とか・・・・・。　」

あ、そういえば・・・・・・でもあなたは自称神様なんでしょう？

「　自称ではないが・・・・・・。では簡単な説明をしよう。　」

説明って・・・・・でも来る前の記憶が定かじゃないんです。

記憶って戻せますか？

「　戻せるが・・・・・お主が辛い目にあう。　」

真実を知らないで生きたくはないんです。

たとえそれがどんなに残酷でも。

「　・・・・・・・わかった。『我は記憶の欠片を呼び集めん、記憶復元』　」

さまざまな記憶が脳になだれ込んでくる。

頭痛がとてもひどい。

思い出すのは家族と過ごした思い出の数々。
兄や妹、両親と行った遊園地。
泳げない兄に泳がせるために行ったあの海。
・・・・・・・・そして家族が死ぬ時？
苦しい、恐い、もう火を見れない。
子供たちを守るために逝った両親。
入口近くで僕と妹を通らせるために逝った兄。
外に出たときには煙で逝ってしまっていた妹。
・・・・もう会えない。
倒れそうになる体を抑え込む。
なんで僕だけ生きているんだ？
僕も殺してくれれば楽だったのに！！
「　見たいと言ったのはお主じゃ。　」
そうだ。だけどいっそ僕も殺してくれ！
「　人は必ず生まれる、生きる、病気になる、老いる、そして必ず死ぬのじゃ。この歯車を狂わせることはできない。　」

じゃあ・・・・・生まれた時からいつ死ぬのかも決まっているのか？

「　ああ、それが運命じゃからの。　」

もう何も言わないし言えない。

言っても苦しみしか出てこないのだから

「　お主は絶望しておった。そして苦しみのあまり運命の歯車を狂わせ、、早く死のうとしておった。その場合異世界に転生させ、生きさせるのが掟。そして異世界で生きるための力を与えるためにここへ来させたのじゃ。　」

異世界へとか・・・・・・それもいいかもしれませんね。

「　これからは神連合機関に任せて、おぬしの運命を決めることになる。最後に一つだけヒントじゃ、根気は重要じゃぞ？ではさらばじゃ。　」

根気・・・・・・・。

神様？・・・・・・いなくなってしまいました。

根気を大切に運命を決めましょう！

ボホォン！！！！

煙が出てきました・・・・・目にしみます。

目を開くとパソコンがありました。

ハイテクノロジーですね。

『 蒼空深琴殿にお伝えします。パソコンを開き、右上にある電源ボタンを押して、画面上に出てくる質問に答えてください。 』

分かりました。

えっと・・・パソコンを開いて、右上の電源ボタンをポチッとな。

あっ、サイトが出てきた。

なになに・・・・・・。

『 質問1，異世界でのあなたの名前を決めてください。（以後異世界で～は省略いたします。） 』

カタカタカタッっと。

エッツェル＝サクラスです。

名字がサクラスで、名前がエッツェルですね。

『 質問2，性別は？ 』

カタカタ（次から省略）

もちろん男です。

『質問３，初期年齢は？』
現在の年齢と同じく１７です。
『質問４，今の身長は？』
１６２，８ｃｍです。
『質問５，成長後は？』
１７０，２ｃｍで。
『体重は身長から少しやせ気味に出します。質問６，種族は？』
と言われると種族一覧が出て来て、
ズラッっと並んでいて、詳細までのっています。
猫人・・・獣人の一種で、猫耳と尻尾、鋭い爪をもっている。
エルフ・・亜人の一種で、高い魔力と寿命、妖精族に好かれやすい体質を持つ。
などなど。
下の方も見ると、
高レア度種族ランダム設定。っていうのもありました。
何でしょう？そういえばダークエルフとかはないです。

多分基本種族の派生種族なんでしょうね。

面白そうなのでこれにしましょう。

『ボタンを押して、ランダムに出てくる種族のうち気に入ったものがあれば決定してください。』

ではまず一押目！

麒麟か・・・・神獣だけどなんかなぁ。

もう一回！

白狐ねぇ。

もう一回！

ダークエルフかぁ。

次！

王人ってなんでしょう？

神狼！

雷人！

上位精霊！

もう考えるのもめんどくさい・・・・・・・・。

ポチポチポチポチ。

あぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！！！「

いいのでないよぉ～。

ポチポチポチ・・・・・あれ？

星光吸血鬼？

説明は・・・・・・。

光に強く、血を吸わずに生きられる吸血鬼。

魔力が強く、魔法も多彩。

人を助ける精神が強く、地方では神レベルの扱い。

・・・・・・これいいかも。

決定っと。

確かにこれは根気が必要だなぁ。

『　これにて質問は終了です。次に横にある手形機械にてを１０秒間強く押し付けてください。　』

終わったか・・・・・。

ボホォウ！！！！

また煙・・・・・と思うと横に手を押しつけるとみられる機械が。

ググッ！！

手を押しつけるのはつらいです・・・・・・。

あっ十秒たちましたね。

『あなたの手形と深層心理は、チャクラムと楽器を扱うのに適しています。今から別室に移り、武器と防具、姿かたち、そしてボーナスポイントを選んでください。』

それだけ映すとパソコンは消えてしまいました。

「深琴様。こちらへどうぞ。」

金髪のお姉さんが現れ、突如現れた扉へと手を引きます。

これから何が起こるんでしょう？

まだ怒りはあるけれどわくわくしますね。

「こちらの部屋では、武器防具姿とボーナスポイントを設定します。まずこのボタンを押しながらモニターを見て、１～９９のボーナスポイントを設定しましょう。」

また根気・・・・・。

ポチっ。

８

４６

５

２３

６７

今ぐらいで手を引こうかな・・・・・。

でも根気が重要だ！

３

５６

３４

２３

６
４
９
１８
まだでしょうか？
５
８
やっぱあそこで手を引けば・・・・・。
９９
おぉ！！金色に光ってる！
決定！
「かなりの根気ですね・・・・ちなみにボーナスポイントによって選べる容姿や武器が変わるのでお得です。」
ラッキーですね♪
「このチャクラムと楽器の中からそれぞれ一つづつ選んでください。」

運ばれてきた台の上にはチャクラムと楽器が載っています。

まずチャクラム。

小さくて小回りが利くのがいいですね。

「一度選んだものは無限生産出来ますので数は心配ありません。」

そりゃまたお得です。

・・・・・！？これは何でしょう！

蒼く光っていて、うすい靄が放たれています。

何故かあの神様より神々しさが・・・・・。

これにします。

「それは当店最高級のものです。最高神様が作ったものですよ！・・・・・あぁまた当店って・・・・・。

口癖ですか、でも最高神様が作ったって・・・・・。

では次に楽器。

「楽譜もすべてのものが付いており、破損しても生み出せます。楽譜作成キットも付いていますよ♪」

これはお得ですね。

私が前世で弾いていたのは金管楽器のみですからねぇ。

「雑誌、楽器の心得も楽器毎についていますのでご安心を！」

サービスしすぎでしょう・・・・・・。

それなら・・・・・。

「ヴィオラにいたしますか？」

子供の時、兄が弾いていたヴィオラ。これにします。

「かしこまりました。次に防具ですね。道具も入っています。想像すれば出てくるのでご自由にどうぞ。」

まず黒い下着上下、これには体力魔力常時回復効果を。

次に蒼光のローブ。フードも付け魔術行使補助効果を。

次はアクアマリンが埋め込まれたネックレス。

蒼丸メガネに白黒の靴。防具はこれぐらいで。

道具は四次元バックに食材以外の生活用品。

お金は、あちらの単位で日本円１億。

それに魔術や武術。経営学書などそれぞれの基本書と発展書。

これだけでいいです。

「かなり少ないですが・・・・・いいのですか？」

はい。防具の代えや道具は四次元バックに入れてください。

「次にボーナスポイントでの特殊能力を選択してください。」

モニターを再び見ると能力とポイントがずらっと並んでいる。

まず想像具現３５Ｐは外せない。

魔法想像１０Ｐもですね。

鑑定５ｐも保険で入れましょう。

残り５０ｐは精霊に好かれやすい体質にしておきましょう。

「最後に容姿の設定です。このマネキンをいじりつつ想像して設定しましょう。」

まず蒼い髪に微妙にたれ目。

中性的な顔立ちで可愛い系男子でいきましょうか。

完成です。

「はう・・・可愛い・・・・はっ！！すいません！了解しました。四次元バックの中にはあなたが行く世界のことも書いてあるのでよ

く目を通しておいてください。　」

分かりました。これから頑張ります。お世話になりました。

「　ではあなたはこれから異なる世界へ飛び立ちます。心の準備はよいでしょうか？　」

・・・・・はい、がんばります。

「　では行きましょう『　かの世界へこのものは飛び立つ、世界の扉よ、いざ開け！　」

意識が薄れてきました。幸せになってやりましょう。

プロローグ　『沈みゆく意識と神様』（後書き）

お楽しみいただけたでしょうか？
感想待ってます♪

第一話　『　出会いは恐い　』（前書き）

異世界一日目！

第一話　『　出会いは恐い　』

目が覚めると森の中にいました。

――――――――訂正です。正確には、

森の中で魔獣に囲まれていました。

どうしましょう。絶体絶命のピンチです。

戦う方法がありませんし・・・・・・。

もう少し早く起きていればよかったですね。

といってももう悔やんでも意味がありません。

策を練るしかありません。

・・・・・彼らは何をしていたんですか？

無論、私を食べて生きながらえるためです。

ということは食糧さえあればいいんですよね。

頭の上で電球が光ったようなひらめきです。

近くに置かれていた４次元バックに手を入れます。

魔獣たちは私の行動を注意深く見ています。

（　肉類出てこい！　）

そう想像すると手に感触が。

そこから先はこちらのもの。

手を抜き出すと思いっきり出てきた干し肉を投げます。

空腹のようだった魔獣たちは一目散に駆け抜けました。

追加でかなりの分の干し肉を投げつけて、

僕は悟られないようにこっそり抜け出しました。

静かに、静かに、

しかしこんなものただの時間稼ぎだったのです。

予想の倍以上のスピードで食事をし終えた魔獣は、

すぐに振り返りました。

そして僕という獲物がいないことを確認し、

その微かなにおいだけで追いかけてきたのです。

・・・・・・もう終わりました。

こんなものただの悪あがきです。
そして静かにへたり込んだ僕は、
静かに目を閉じました。

「ギャルルル・・・・・・ギャァ！！」
聞こえるのは魔獣の悲鳴。
そうか・・・・更に強い魔物が来たのですか。
さらなる絶望、もう終わったとおもっても何も起きません。
「ギルドマスター宛ての依頼にしては軽いですねぇ。しかしランク5魔獣多生息区域のなかでは仕方のないことですか・・・・・。」
不意に人の声が聞こえます。
人が来てくれたのでしょうか・・・・・私は助かったのでしょうか？
「あれ？こんなところに星光吸血鬼（セイント・ヴァンパイア）の子供がいるじゃないですか。先ほどから感じていた魔力はこの子からですか。」

気づかれました！確か星光吸血鬼は神レベルの扱い・・・・・。
同時に狙って金もうけをしようとたくらむ連中も多いのでは！？
早く逃げなければ！
急いで立ち上がり駆け抜けました。
ムギュ。
そんな効果音が聞こえるように、
人間はローブのかぶっていなかったフードをつかみました。
「逃げてはいけません。親もいずに星光吸血鬼が一匹でこんな山にいるのはおかしいです。安心しなさい。私は攫いに来たわけではありません。というか危ないのでとりあえずギルドに来てください。『スリーピー・マジック』」
・・・・・あ・・・れ？・・・・・ねたばっか・・・・なのに・・・・・ね・・・む・・たい・・・・・。
そうして私の意識はシャットダウンしました。
が、これは最大の幸運でもあると同時に不幸でもあったのです・・・・・。

コポコポコポ・・・・・紅茶を入れる音が響きます。
その音で、僕ことエッツェルは異世界二度目の起床です。
温かいベットの上です。
だれがこんなことを・・・・・・・。
「・・・・んん・・・・・・・・あっ！！」
あの人間が・・・・・・・。
早く逃げなければ！！
「待ちなさい、逃げてはいけません。」
冷たく透き通る声が響きます。
その声で体が動かなくなりました。
「まず座って落ち着きなさい、紅茶でも飲みます？」
先ほどとは打って代わりなだめるような声で拍子抜けし、

その場に座り込んでしまいました。

かなり眠ったはずなのに疲れがひどいです。

「ほらほら、手を貸しますので立ち上がりなさい。恐らく疲れているでしょうから椅子に座ってください。」

人間が手を貸しますがその手を振り払い自力で起き上がります。

絶対に椅子には座りません。

「つよがらないほうがいいですよ。恐らく・・・・・・殺気でもう立つのも限界でしょうから。」

先ほどから人間からかなり濃密な殺気が放たれています。

といっても来るのは恐怖。

そしてもう立つのもつらいです。

「これでもですか？」

人間が目を見開いたと思うとからだがうまくうごかなくなり・・・・・。

「失礼ですが魔術を使わせていただきました。もう解除するまでせいぜいうなずくことしかできませんよ？」

・・・・・・・・。

「 といってももう考えるのもつらいでしょうが。まずあなたの名前を答えなさい。 」

・・・・・・・・。

「 あ、喋れないんですよね、ある程度解除しましょうか。 」

人間が手を軽く振る、すると体が少し軽くなりました。

が、まだ立てません。

「 では答えてください。 」

もう答えるしかないのが事実。

「 ・・・・・エッ・・・・・ツェル・・・・・・。 」

「 エッツェルですか、いい名前ですね。次に性別と種族。 」

分かる質問を・・・・・・。

「 ・・・・・お・・とこ。 」

というと人間の目が一瞬大きくなりましたがすぐ戻ります。

「 種族 」

「 ・・・・・せ・・いん・・・・・と・・・・・ヴァ・・ん・・・ぱ・・いあ 」

「よくできました。次に私も自己紹介と行きましょうか。私はレイン＝ツェルトです。見ての通り男ですよ。ちなみに私は冒険者魔術師支援団体、通称ギルドのマスターで、星光吸血鬼です。」

レイン・・・・・・さんという人は、人間じゃありませんでした。

僕と同じ星光吸血鬼だそうです。

「では・・・・・解除です。ご自由にどうぞ。」

解除されると疲れがどっと押し寄せ、

レインさんのほうへ倒れこんでしまいます。

「お疲れ様です。実は星光吸血鬼は現在僕と妻とあなただけです。」

というか結婚してたんですね・・・・・・。

「始めは女の子かと思いました。背も低いですし。」

普通にしとけばよかったかな・・・・・・。

「星光吸血鬼はかなり高値で取引され、全滅してしまました。なので私と妻の養子にし、安全にさせたいのですがよいでしょうか？形では実子だということにして。」

養子・・・・・自分の保身のためなら・・・・・。

「飽くまでも保身のためですがお願いします。」

「隠し子扱いになりますがねぇ。」

「・・・・・・はい。」

この人案外いい人かもです・・・・・・。

「しかしこのレベルじゃ直ぐに死んでしまうので、翌日から魔物退治に出かけましょう。」

・・・・・・・訂正、かなりのスパルタ指導になりそうです。

第一話　『　出会いは恐い　』（後書き）

感想誤字脱字待ってます

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6411z/

潮風の中で　～吸血鬼冒険譚～

2011年12月27日20時54分発行